

「明日を拓く岩手の絆」

令和2年度 第58回岩手県小学校長会総会

会報

第308号

岩手県小学校長会
代表 太田勝浩
事務局 TEL.019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9
盛岡市勤労福祉会館2F
印刷 富士屋印刷所



第五十八回岩手県小学校長会の総会が四月十七日（金）に都南文化会館（キヤラホール）で開催されました。今年度は、新型コロナウイルスの感染防止のため、各地区を代表して理事、評議員等の地区選出役員に参加による半日での縮小開催となりました。こうした中、総会で選出された太田勝浩会長（盛岡市立中野小学校）は、「明日を拓く 岩手の絆」をしっかりと心に刻み、新型コロナウイルス感染防止などの様々な教育課題に、この校長会という組織を有機的に機能させながら情報を共有し、共に連携を深め取り組んでいくことの重要性を訴えました。

総会の内容は、次のとおりです。

総会Ⅰ

一 開会の言葉

坂川孝志（久慈）

二 会長代行挨拶

太田勝浩会長代行

三 岩手県教育委員会行政政

明

教職員課首席経営指導

主事兼小中学校人事課

長

金野 治 氏

学校教育課首席指導主

事兼義務教育課長

小野寺哲男 氏

※紙面での説明

四 被災地報告

三浦和人（大船渡小）

※紙面での報告

総会Ⅱ

五 議長選出・署名委員委嘱・

書記任命

六 報告

七 議事

八 新役員挨拶

九 閉会の言葉

千葉伸一（釜石）

※閉会后に、理事・評議員合

同会議並びに各専門部の合同

会議が開催されました。



会員席



総会議長席



総会提案

子どもたちと 教職員の笑顔の中で



岩手県小学校長会

会長 太田 勝 浩

春の和らかい風が心地よい季節となりました。

ここに、第五十八回岩手県小学校長会定期総会を開催できますことに深く感謝申し上げます。

しかし、世界で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染防止のために、ご来賓の皆様やこの三月をもって本会を退会されました六十名の校長先生方をお招きすることなく、また、全会員三百四名のうち地区選出役員の出席のみにより開催せざるを得なかったことは大変残念に思うところであります。

そのような中、今年度岩手県小学校長会は、新たに七十

名の新会員の校長先生方をお迎えいたしました。新会員の皆様には、これまでの豊富な

経験と実践を生かしながら学校経営の責任者として、地域に根差し、教育の振興に向けて存分に力を発揮されますよう、ご期待申し上げます。

現在、我が国はあらゆる分野での知識基盤社会への新たな進展やグローバル化の進行、世界に類を見ないスピードで進む少子高齢化により、先を見通すことが難しい時代を迎えています。また、今年度から全面实施となっている小学校学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力を育むために、各学校に

おけるカリキュラム・マネジメントを確立し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を進め、「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。加えて、学校は、いじめ・学校不適応問題の解消、特別支援教育の充実、子どもと向き合う時間の確保、情報モラル教育の充実などの複雑化・多様化した課題を解決していかなければなりません。

校長は、学校経営の責任者であり、変化する時代の潮流や押し寄せてくる様々な課題を踏まえ、豊かな創造性やしなやかな知性を発揮し、互いの個性や絆を大切に作る社会づくりに貢献できる人間の育成に向け、一層リーダーシップを発揮していかなければなりません。子どもたちや地域にとって何が最善なのかを判断し、ぶれることなく着実に取り組んでいくことが重要な責務です。さて、東日本大震災津波か

ら九年が経ちました。あの震災で失われたものは計り知れなく、途方もないものでした。しかし、こうして子どもたちと前を向いて歩んだ九年間を振り返ると、改めて、命の尊さ、人と人のつながりの大切さなど得られるものは無限に広がるものだと実感しています。昨年開催された、ラ

グビーワールドカップ釜石大会で釜石市内小中学校十四校二千二百人の子どもたちの「ありがとうの手紙」の合唱は、鳥肌が立つほど感動し涙があふれました。震災津波に負けず、しっかりと前を見据え、十年後、二十年後の未来を拓いていく子どもたちの力強さを実感しました。街づくりや生業の創生、長期的な心のケアなど課題は山積して

いますが必ず復興することを信じています。また、そうした諸課題を的確に把握し、会員相互に情報を共有するとともに岩手の将来を担う「ひとづくり」を進

めていくために「いわての復興教育」を推進していくことが大切です。これらのことを踏まえ、岩手県小学校長会は、震災以来、会員の総意として大切にしてきた「明日を拓く 岩手の絆」をしっかりと心に刻み、子どもたちと教職員の笑顔の中で、校長自らの使命を自覚し教育的識見を高め合っ

ていく必要があります。そして、コロナウイルス感染等を含めた様々な教育課題に、この校長会という組織を有機的に機能させながら情報を共有し、共に連携を深め取り組んでいくことをここに改めて確かめ合いたいと思いま

す。結びに、本日の総会の開催に当たり、多大なご協力をいただきました岩手県教育委員会、また、総会の運営にご尽力いただきました盛岡市校長会の皆様に対しまして、深く感謝申し上げます。

行政説明の概要

岩手県教育委員会教職員課首席経営指導主事兼小中学校人事課長
金野 治 様



1 令和2年度公立小中学校教職員定期人事異動について

- ・女性管理職の割合については、小学校の校長（20.3%）、副校長（33.9%）ともに、昨年度よりも高くなった。女性教員が積極的に管理職を目指す環境づくりや人材育成に努めていただいている結果であると受け止めている。
- ・新規採用者については、今年度、248名（小、中、養護、栄養各教諭）を採用した。来年度も小中学校合わせて230名程度の予定。また、今年度の採用試験実施については、受験年齢制限をこれまでの49歳から59歳までとした。

2 少人数教育の推進について

- ・小中学校のすべての学年で35人以下学級が実現して2年目となった。人的ゆとりの中で基礎学力の向上を図ることができる教育環境を十分に生かして子どもたちの学びの充実に一層努めていただくようお願いしたい。
- ・すこやかサポートは、今年度から会計年度任用職員の制度整備により、一部これまでと同様の活用ができない。特に、複式解消のためのすこやかサポートの活用について留意願いたい。

3 再任用について

- ・今年度の教諭の再任用は、29時間勤務が156名、フルタイム勤務が180名。これまで培ってきた経験を十分に発揮できるよう配慮をお願いしたい。
- ・今後の再任用者数は、令和4年度には400名、令和5年度には500名を超える見込み。

4 人材育成について

- ・昨年度、新採用者の退職者はいなかった。但し、仕事や人間関係等が要因となって精神疾患になる新採用者は残念ながら減少傾向にはない。
- ・故野村克也氏の「人を育てることは、自信を育てること」という言葉がある。新採用者の悩みに共感し、「小さなできた」を逃さず認めほめて、喜びを共にしながら自信を積み重ねていけるよう配慮をお願いしたい。

5 不祥事の未然防止について

- ・昨年度の小中学校の懲戒処分件数は11件であった。その中でも、「飲酒運転」、「体罰」、「不適切な事務処理」が最重点課題。
- ・飲酒運転については、昨年8月～9月にかけて立て続けに発生する異常事態であった。教職員一人一人の健康状態や飲酒習慣を把握し、その状況に応じた指導支援が必要。
- ・体罰事案については、体罰はいけないと分かりつつ感情的になってしまうケースが多い。県で行っているアンガーマネジメント研修の内容の共有と確実な伝講を改めてお願いしたい。
- ・不適切な事務処理については、事務という専門的な業務であっても担当者任せにせず、管理職として一人職である事務職員の指導支援をお願いしたい。

6 働き方改革の取組について

- ・県で作成した保護者、地域住民向けのリーフレットを活用し、より質の高い教育を提供するという働き方改革の趣旨の理解増進を図り、学校業務の精選や、保護者、地域との適切な役割分担につなげて欲しい。
- ・事務職員の超過勤務については、命令権者である校長が予算に基づき、また業務の緊急度等を勘案しながら必要最小限の時間に留めるようお願いしたい。

※学校教育課首席指導主事兼義務教育課長 小野寺 哲男 様より「本県の義務教育行政の現状と課題」と題した資料を提供いただきました。

被災地状況報告

大船渡市立大船渡小学校
校長 三浦 和人

今回の総会では、大船渡市立大船渡小学校 三浦 和人 校長先生から「気仙地区の状況の報告」と題して貴重な資料提供をいただきました。

気仙地区の各小学校の被災当時の状況と現在の様子や全校児童数、仮設住宅からの通学児童数の推移など、分かりやすくまとめていただき、被災地の学校の状況が一目で分かる内容となっています。各校での復興教育の一助にさせていただければと思います。

(左資料は、配布された資料の一ページ目)

令和 2 年度 岩手県小学校長会 総会資料 令和 2 年 4 月 17 日 (金)

『気仙地区の状況の報告』 気仙地区小学校長会 大船渡市立大船渡小 校長 三浦 和人

1. 当時の校舎等の状況と現在

市町	学校名	平成 23 年度の状況	令和 2 年度の状況	備考
大船渡市	盛小	校庭仮設住宅	通常	H29 県道徳研 H30 県 PTA 研 R 元県理科研 ※中学校の再編
	大船渡小	1 階浸水	通常	
	末崎小	校庭仮設住宅	通常	
	赤崎小	全壊 ※蛸ノ浦小使用	新校舎	
	蛸ノ浦小	校庭仮設住宅	・新赤崎小として統合	
	猪川小	校庭仮設住宅	通常	
	立根小	(体育館物資保管)	通常	
	日頃市小	(校庭校地等の損壊)	通常	
	大船渡北小	校庭仮設住宅	通常	
	綾里小	1 階浸水	通常	
	越喜来小	全壊 ※甬嶺小使用	新校舎	
	崎浜小	校舎損壊 ※甬嶺小使用	・新越喜来小	
	甬嶺小	(地元の仮設用土地提供)	として統合	
	吉浜小		通常	
陸前高田市	高田小	1 階浸水	新校舎	
	気仙小	全壊 ※長部小使用	新校舎	
	長部小	校庭仮設住宅	・新気仙小として統合	
	広田小	校庭仮設住宅	通常	
	小友小	1 階浸水	通常	
	米崎小	校庭仮設住宅	通常	
	矢作小	※23 年 3 月統合	通常	
	下矢作小	新矢作小		
	生出小	・校庭仮設住宅		
	竹駒小	校庭仮設住宅	通常	
	横田小	校庭仮設住宅	通常	
世田米小	(校舎亀裂等)	通常		
住田町	有住小	(校舎亀裂等)	通常	※文科省研究開発 『地域創造学』

※震災時、児童生徒死者・行方不明者(小学校 9 名、中学校 11 名)

2. 各種データ(手元の集計により確定数ではない)

(1) 気仙地区児童数の推移

	平成 22 年度	令和元年度
大船渡市	2,043	1,460
陸前高田市	1,203	626
住田町	251	172
気仙地区合計	3,497	2,258



大会宣言

岩手県小学校長会は、本会結成以来、会員の英知と情熱を結集して、課題解決に主体的に取り組み、着実にその成果をあげてきた。

私たちは、東日本大震災発災後からの会員の総意「明日を拓く 岩手の絆」を決して忘れることなく、校長としての使命と職責の重大さを深く自覚し、「自ら未来を拓きともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成」を目指すとともに、「いわての復興教育」の視点を踏まえた学校づくりを推進し、県民の信託に応える責務がある。

ここに、岩手県小学校長会会員の総力を結集し、次の事項の実現に全力を傾注することを、第五十八回総会の総意をもって宣言する。

- 一 確かな経営理念のもと、「生きる力」を育み、社会に開かれた教育課程の編成と、着実な実施、評価、改善を行う。
- 一 被災地区の学校運営上の諸課題を的確に把握し、情報共有するとともに

に、震災の教訓を未来に語り継ぐ活動や、未来を担う「ひとづくり」を進めるため「いわての復興教育」を継続して推進する。

一 校長自ら研鑽に励むとともに、業務の改善による教育の質の向上を図り、「ふるさとを愛し共に支え合いながら未来を拓く子どもを育てる岩手の学校教育」を推進する。

一 自他の命を大切にしながら共に生きる心の育成と人間尊重の精神に基づく積極的な生徒指導の充実を図る。

一 調査研究及び要望活動を組織的に推進し、学校における働き方改革を含めた教育諸条件の改善・整備のための取組を推進する。

一 広報活動の充実と会員相互の情報交流に努めるとともに、関係諸機関、団体との連携強化を図る。

令和二年四月十七日
岩手県小学校長会

第五十八回 総会

地区校長会研究交流

相互の連携と経営実践の交流を通して 学校経営の力量向上を図る校長会

岩手地区校長会

一 はじめに

昨年度岩手地区校長会では、第五十回地区校長会研究大会を開催いたしました。各学校や地域の実態に即した学校経営の諸問題について研究協議し、地区内の教育の振興に寄与するとともに、校長としての資質向上を図ることができました。

岩手地区校長会は、八幡平市校長会、滝沢市校長会、雫石町校長会、葛巻町校長会、岩手町校長会の五つの校長会で組織されています。小学校が二十九校、中学校が十五校、小中併設校が二校で合わせて四十六校です。

当地区校長会では、小学校と中学校の連携を密にしながら、県小・中学校校長会の研究の趣旨並びに研究の視点に基づき、確かな学力や豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育む教育

の推進を目的に研究を取り進めています。

二 研修計画の概要

本年度岩手地区校長会では、次のような研修主題に基づき研修を進めています。

【共通主題】

「ふるさとを愛し、共に支え合いながら未来を拓く子供を育てる岩手の学校教育」

【小学校主題】

「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

【中学校主題】

「各市町校長会の研修担当が研修計画を持ち寄り、交流を図る予定となっています。」

三 研究部会構成の概要

今年度の研究部会構成（小学校）と研究内容は次のようになっています。

【八幡平市校長会小学校部会】

○地域・関係機関と連携した安全教育・防災教育の推進と校長の役割

【滝沢市校長会小学校部会】

※「危機対応」をテーマとして新たに研究を進める。

【雫石町校長会小学校部会】

○未来への夢や志を育むキャリア教育の推進における校長の役割

【葛巻町校長会小学校部会】

○教職員の資質・能力を高めるための校長の役割

【岩手町校長会小学校部会】

○心豊かにたくましく未来を生き抜く力を育む学校教育の推進と学校経営

四 地区研究大会発表概要

昨年度の地区研究大会では、小学校二つの部会が、研究発表を行いました。

【研究・研修】

◆研究主題 学校の教育力を向上させる研究・研修の推進

◆研究のねらい

○各学校の課題を解決する取組を通して、研究・研修体制を構築するための視点明らかにする。

○教職員の資質・能力を向上させ、学校の教育力を高めるための校長の役割を明らかにする。

◆研究内容

○学級経営の取組を通じた学級担任の資質・能力の向上

・学級経営についての研修の実施、「まなびフェスト」と連動させた学級経営案の活用

○学校公開への取組を通じた授業者の資質・能力の向上

・教職員一人一人のモチベーション向上のための働きかけの工夫、校長通信の発行

○確認面談を生かした教職員の資質・能力の向上

・面談を生かした目指す具体的な児童の姿の設定、実現のための方策の策定

○小中連携強化に向けた主任層の資質・能力の向上

・小中交流会企画運営に係る各主任への助言

【学校安全】

◆研究主題 地域・関係機関と連携した安全教育・防災教育の推進と校長の役割

◆研究のねらい

○児童の命を守る手立てを組む、より確実性を向上させるための地域や関係機関との連携の在り方と校長の役割を実践的に明らかにする。

◆研究内容

○各校の実情による視点に沿った連携と実践

・各校の連携についての実態把握と考察、視点の設定

・視点 保幼小中の連携、学校運営協議会による連携、専門的な人材や専門機関を組織に取り込んだ連携、日常的・継続的に

関わりのある組織（見守り隊等）との連携、有事の際に機能する組織づくり

○小中連携による実践の交流

・中学校区単位による安全対策マニュアルの作成について、マニュアル作成から各小中学校PTA総会での承認までの校長の役割

五 おわりに

今年度開催予定の第五十七回岩手県小・中学校長研究大会花巻大会では、岩手地区より「実践的な指導力を高める校内研修体制の推進」並びに「学校安全に係る地域等との連携・協力を図った意図的・計画的な取組の推進」について発表を行います。ご意見ご助言をお願いいたします。

（八幡平市立柏台小学校）

校長 田村 勝

復興の槌音

紫波地区校長会

片寄小学校が所在する志和公民館では、東日本大震災の発災後、いち早く避難所の開設を決め、大槌町・吉里吉里の皆さんを受け入れました。避難してこられた方には悲しみや不安があり、とてもつらい日々を送られたことと思います。また、受け入れる側の志和地域の皆さんも、初めてのことばかりで大変ご苦労されたとお伺いしています。それでも、公民館職員と地域住民が協力して、交代で食事の提供や、余震が続いて不安な気持ちになる方々への精いっぱい支援を行うことができました。この背景には、実は長い歴史があったのです。

ふるさと交流学習会は、昭和六十年、志和公民館の新たな事業として計画が進められたものです。

第一回は、赤石小学校・上平沢小学校・片寄小学校と吉里吉里小学校の六年生が、前後期の二回、一泊二日のホームステイを通して、内陸と沿岸地区の生活や文化の違いを学びました。(ふるさと交流学習会「十年のあゆみ」より)

その後、五年生の学年PTA活動として受け継がれ、現在は、七月と九月の二回、日帰りでの交流を行っています。令和元年度は、三十五回目の開催となりました。小学生の頃のつながりから、今も吉里吉里の方と交流している保護者もいらつしやいます。昭和に始まり、平成・令和と、時代を超えて交流が続いている、歴史と意味のある大切な交流活動になっています。

東日本大震災後、すぐに避難所を開設し、吉里吉里の皆さんを迎え入れることができましたのも、この交流活動を通して両地区の絆を深めてきたか

らこそ可能だったのです。昨年度は、七月二十七日に、志和の子どもたちが吉里吉里に行って前期の交流を行いました。はじめの会では、吉里吉里学園のPTA会長さんから、東日本大震災の時の様子をお聞きしました。

2011.3.11 東日本大震災からの復興 今日から明日へ 一歩ずつ 紫波地区

今なお吉里吉里海岸には震災の跡が残っている中、道路や住宅の再建など復興が進む様子を知ることでもできました。志和の子どもたちにとっては、貴重な学びの機会となりました。天候にも恵まれ、思う存分に海水浴を楽しみ、

班ごとにスイカ割をして交流し、保護者の方からの心温まるおもてなしをおいしくいただきました。

後期の交流学習会では、吉里吉里の皆さんを志和に迎え、そば打ち体験や自転車競技場での自転車走行体験などで交流しました。同じく、はじめの会では、東日本大震災の時、避難所開設にご尽力された当時の公民館職員(現紫波町議会議員)さんから避難所での様子についてお話していただきました。

子どもたちは初めて聞く当時のお話を真剣に聞き、また、吉里吉里からいらした保護者の方々も、当時の様子を聞いたり写真を見たりし、感慨深い様子でした。

ふるさと交流学習会は、志和と吉里吉里の子どもたちに新しい人間関係を育み、沿岸と内陸のくらしを、体験を通して学ぶ機会となるとともに、両地区の絆をより深めていることを実感します。

令和二年度で片寄小学校は閉校となります。令和三年度に紫波町西部地区三校が統合して「紫波町立西の杜小学

校」として新たな学びの場がスタートします。これまで志和公民館との協働で行ってきた「ふるさと交流学習会」の実施は未定ですが、これからも、吉里吉里との交流は形を変えて続くこととなるでしょう。

紫波町では、震災後、町内小中学校で募金活動を毎年行い、その募金の一部を使い、大槌町と紫波町のすべての小中学校の給食に紫波町産の「ラ・フランス」を提供する「かけはし給食」を実施しています。昨年度も、両町の学校給食センターにご協力いただき、十二月四日に、大槌町の郷土料理と紫波町のラ・フランスを両町の小中学生が食べ、絆を深めることができました。

活動は様々ですが、想いは一つです。被災されたすべての皆様の幸せと復興を願い、その「かけはし」となれば、と。

(紫波町立片寄小学校

浅倉 圭)

令和2年度

岩手県小学校長会役員

会長(1名)

盛岡地区 盛岡市立中野小学校長 おおた かつひろ 太田 勝浩

常任理事(5名)

総務部・事務局長 盛岡市立向中野小学校長 なかむら まさひこ 中村 雅彦

副会長(4名)

盛岡地区 盛岡市立飯岡小学校長 いしばした かこ 石橋多賀子

行財政部 盛岡市立仁王小学校長 おやまだ ひでつぐ 小山田秀次

遠野地区 遠野市立遠野小学校長 ほそかわ あきこ 細川 昭子

研修部 盛岡市立仙北小学校長 えんどう こうせい 遠藤 耕生

釜石地区 釜石市立双葉小学校長 ちば けんいち 千葉 伸一

広報・編集部 盛岡市立生出小学校長 さとう あつし 佐藤 淳

宮古地区 岩泉町立岩泉小学校長 ささ きしんや 佐々木真也

生徒指導部 盛岡市立山王小学校長 こうとう としのぶ 後藤 敏信

事務局(2名)

会計監事(3名)

花巻地区 花巻市立内川目小学校長 まぶち ちか 馬淵 千加

事務局長 なかむら まさひこ 中村 雅彦

一関地区 一関市立巖美小学校長 おの であかよ 小野寺香世

常勤書記 いしがめ さとみ 石亀 智美

久慈地区 久慈市立夏井小学校長 おおうち あきら 大内 明

理事

評議員

地区名	学校名	理事氏名	学校名	評議員氏名	学校名	評議員氏名
盛岡	上田	近藤尚樹	桜城	佐藤智一	松園	鈴木亨
			好摩	高橋和江		
			岩手	沼宮内		
紫波	彦部	森保茂	長岡	館脇敏朗		
花巻	笹間第一	高橋昌克	湯口	佛川恒明		
遠野	遠野	細川昭子	遠野北	後藤良子		
和賀	南	千葉浩	黒沢尻北	船田浩		
胆江	常盤	長野圭二	胆沢第一	高橋浩喜	岩谷堂	佐久間充
一関	萩荘	門間健一	山目	小山祐二	千厩	須藤壽弘
気仙	大船渡	三浦和人	盛	大和田典明	吉浜	寺澤貴裕
釜石	双葉	千葉伸一	白山	熊谷直樹		
宮古	岩泉	佐々木真也	宮古	佐藤和男		
久慈	久慈	坂川孝志	宿戸	小野紀子	野田	吉田久美子
二戸	福岡	吉度康男	仁左平	荒川優子	小軽米	小田島誠一

専門部担当理事・専門委員等

(◎は部長)

総務部担当理事 (6名)

石橋多賀子 (盛岡・飯岡)
 近藤尚樹 (盛岡・上田)
 細川昭子 (遠野・遠野)
 千葉伸一 (釜石・双葉)
 佐々木眞也 (宮古・岩泉)
 ◎中村雅彦 (盛岡・向中野)

行財政部担当理事 (3名)

長野圭二 (胆江・常盤)
 坂川孝志 (久慈・久慈)
 ◎小山田秀次 (盛岡・仁王)

研修部担当理事 (3名)

千葉浩 (和賀・南)
 三浦和人 (気仙・大船渡)
 ◎遠藤耕生 (盛岡・仙北)

広報・編集部担当理事 (4名)

畠山剛 (岩手・沼宮内)
 森保茂 (紫波・彦部)
 吉度康男 (二戸・福岡)
 ◎佐藤淳 (盛岡・生出)

生徒指導部担当理事 (3名)

高橋昌克 (花巻・笹間第一)
 門間健一 (一関・萩荘)
 ◎後藤敏信 (盛岡・山王)

行財政対策委員 (5名)

吉田信一 (盛岡・杜陵)

北田光志 (盛岡・土淵)
 石川耕司 (盛岡・太田)
 松本正明 (盛岡・月が丘)
 中村悟史 (盛岡・永井)

調査研究委員 (6名)

加藤良 (盛岡・本宮)
 鎌田達也 (盛岡・河北)
 阿部真一 (盛岡・緑が丘)
 山本勉 (盛岡・大新)
 鈴木亨 (盛岡・松園)
 伊藤博之 (盛岡・見前南)

広報・編集委員 (5名)

佐々木勉 (盛岡・厨川)
 小山田吉光 (盛岡・繋)
 及川一也 (盛岡・羽場)
 今野洋明 (盛岡・手代森)
 高橋和江 (盛岡・好摩)

生徒指導委員 (5名)

中館秀行 (盛岡・大慈寺)
 佐々木満 (盛岡・青山)
 藤村一夫 (盛岡・太田東)
 福島正徳 (盛岡・北松園)
 佐藤あい子 (盛岡・巻堀)

全連小理事 (2名)

太田勝浩 (盛岡・中野)
 中村雅彦 (盛岡・向中野)

全連小教育環境整備等委員会 (1名)

後藤敏信 (盛岡・山王)

全連小教育課題委員会 (1名)

佐藤淳 (盛岡・生出)

全連小各部担当者 (3名)

(1) 対策担当者
 小山田秀次 (盛岡・仁王)
 (2) 調査研究担当者
 遠藤耕生 (盛岡・仙北)
 (3) 広報担当者
 佐藤淳 (盛岡・生出)

全連小総会代議員 (3名)

細川昭子 (遠野・遠野)
 千葉浩 (和賀・南)
 長野圭二 (胆江・常盤)

東北連小理事 (2名)

太田勝浩 (盛岡・中野)
 石橋多賀子 (盛岡・飯岡)

東北連小監事 (1名)

遠藤耕生 (盛岡・仙北)

東北連小委員 (2名)

(1) 教育課程委員
 遠藤耕生 (盛岡・仙北)
 (2) 対策委員
 小山田秀次 (盛岡・仁王)



理事会・評議員会合同会議



行財政部合同会議



生徒指導部合同会議

編集後記

今年度の総会は、新型コロナウイルスの感染防止のため、規模を縮小し半日開催となりました。新型コロナウイルスの感染防止に伴う社会生活への影響は、学校教育にも大きな影を及ぼしています。こうした時期であるからこそ、総会で太田会長が述べたように小学校長会という組織を機能させながら、情報共有し、共に連携を深めながら課題解決に取り組むことが重要なることを再確認し合いたいと思います。

折しも、東日本大震災津波から九年の歳月が経ちました。この間、本会は「明日を拓く 岩手の絆」を会員の総意に歩みを進め、大きな成果を上げてきました。今回の新型コロナウイルスにかかわる困難にも、岩手の子どもたちのために、岩手の教育のために会員全員で立ち向かって行きたいと思っています。

最後に、校務ご多忙の中、原稿をいただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

(担当 佐藤 淳)